

2021年度 相談支援事業所「恵の実」
事業報告書

1、職員体制

管理者；1名

相談支援専門員；1名

スタッフ；事務員 1名（兼務）

2、2021年度実績

・登録者人数 55件（未就学児13名、小学生38名、中学生3名、高校生1名）

・実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ利用者数	24	19	24	22	23	20

10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
25	21	27	27	23	35	26.3

3、苦情報告

・特になし

4、職員研修

・相談支援事業所連絡会研修会

医療的ケア入門研修

人材育成研修

・豊川市障害者自立支援協議会研修会

医療的ケア専門部会

・相談支援従事者現任研修

・障がい児支援計画と子どもの権利擁護の研修

・豊川市介護保険事業所連絡協議会

居宅介護支援・介護予防支援部及び相談支援専門員合同勉強会

5、2021年度の状況と分析

・昨年度11月より運営を再開し、登録者数は令和元年度の実績を上回る状況となっている。

・コロナの影響を受け、事業所訪問などが行いにくくなった時期があったが、電話で対応するなどして、特に問題なく事業を継続できた。

・コロナの影響で、学校や事業所が休みになり、生活が不規則になったことで利用者が不安定となり、事業所の利用やサービスの調整等が必要になるような案件もあった。

・保護者が精神疾患を患っているケースが増えており、子育てがうまくいかず、児童の問題だけでなく家庭の問題が複雑化している。精神疾患を患っている保護者にも他の相談支援専門員がついており、相談支援専門員が連携し合って本人だけでなく家庭全体の問題が解決していくよう対応している。ま

た、既存の福祉サービスでは対応しきれないケースもあり、基幹相談支援センターの協力を得て地域のボランティアを活用しながら対応しているケースもある。

- ・研修会等に積極的に参加することで、相談支援専門員同士の横の連携もできており、相談員がケースの問題を抱え込むことなく対応できている。

6、次年度の方針と課題

- ・豊川市全体として相談支援事業所が足りていない現状にある。現在55件のケースを担当しており、余裕はない状況ではある。現在担当しているケースをまずは丁寧に対応していくことで、ケースの問題が軽減し状況が落ち着いてくる中で、少しずつ新規利用者の受け入れを検討していく。

- ・今後も、相談員がケースの問題を抱え込まないよう、管理者と連携しながら、また他機関とも情報共有し連携をしあいながら、豊川市の福祉向上に少しでも貢献できるよう努力していく。